

新 知 故 温

岩崎友一県議会だより

【発行】
2023年(令和5年)7月20日 VOL.29

岩崎友一事務所

釜石事務所

〒026-0025 岩手県釜石市大渡町2-6-23 TRYビル2階
TEL: 0193-55-6830 FAX: 0193-55-6831

大槌事務所

〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌23-7-5 (大槌タクシー内)
TEL: 0193-42-2257 FAX: 0193-42-2258

ご挨拶

7月7日、今任期最後となる県議会6月定例会が閉会しました。今定例会で可決した主な補正予算と私の質疑の一部についてご報告をいたします。

あっという間の4年間でした。振り返ると、東日本大震災津波からの復興、コロナ対策、地域医療の充実をはじめ、様々な課題解決に向けて、提案も交えて多くの議論をしてきました。また、岩手県の発展及び県民の利益のためには、時の政権与党との連携は不可欠であるとの認識から、知事の一部の野党に偏った政治姿勢は県民を無視した身勝手な言動であることについて、何度も激論を交わしたことも強く印象に残っています。

本県においては、人口減少が加速しています。また、都市部との格差是正も大きな課題です。そのような中で、「人口減少社会だからこそできること」、「地方だからこそできること」について、皆さんと共に真剣に考え、より良い方策を導きだしていきたいと思っております。

皆様には、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和5年7月20日

岩手県議会議員 岩崎 友一



令和5年度 岩手県原油価格・物価高騰対策支援（6月補正予算）

1 中小企業者等事業継続緊急支援金支給事業費（予算額：10.1億円）

➤ 原油・物価高騰の影響を受けている中小企業者等に対して、事業継続を支援

- (1) 支援対象者：県内中小企業者等（支給要件を満たす者）
- (2) 支援額：1者あたり法人15万円、個人7.5万円

【支給要件（主なもの）】

- ①令和5年4月から令和5年9月までの期間のうち、いずれか1か月の売上が過去4年間の中の任意の年の同月比で20%以上減少していること。
- ②上記①で確認された令和5年4月から令和5年9月までの売上が減少した単月に、事業のために支払ったエネルギーの単価が前々年同月の単価と比較して増加していること。
- ③支援金の給付を受けた後も、事業を継続する意思があること。



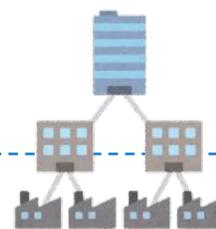
2 中小企業者等賃上げ環境整備支援事業費補助（予算額：2.0億円）

➤ 適切かつ円滑な価格転嫁や賃上げに取り組む中小企業者等に対して、設備投資・人材育成等を支援

- (1) 支援対象者：県内中小企業者等（支給要件を満たす者）
- (2) 支援額：補助率2/3（補助上限額200万円）
- (3) 対象経費：機械装置・システム構築費、技術導入費、専門家経費など

【支給要件（主なもの）】

- ①「給与支給総額年+2.0%以上」を記載した経営革新計画の承認を受けること。
- ②「パートナーシップ構築宣言※」を行うこと。※円滑な価格転嫁に向けた環境整備に向け、自社の取引方針を宣言するもの



3 教育旅行受入宿泊施設支援緊急対策費（予算額：1.6億円）

➤ 宿泊施設に対して、価格転嫁が困難な教育旅行の受け入れに伴う負担を軽減

- (1) 支援対象者：県内宿泊施設（ホテル、旅館等）
- (2) 支援額：2千円/人泊



活動報告

所属する「商工建設常任委員会」で取り上げました

釜石港の発展に向けて

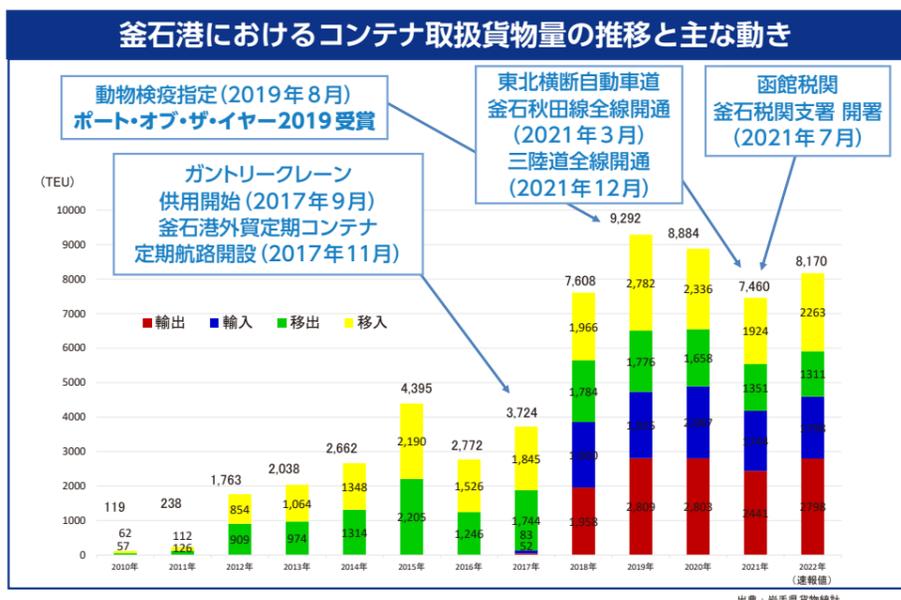
釜石港は震災後、飛躍的にコンテナ取扱量が増えており、今後更なる伸びが期待されます。これまで、県当局にもご努力をいただき、ガントリークレーンの設置や動物検疫港の指定、北上市から釜石市へ向かう口内トンネル（北上市）の整備などが進められました。

これらは釜石港の発展に向けて、一つ一つに大きな意義があると思いますが、単発の整備では、効果は限定的になってしまっていると感じています。

来年度からはじまる物流改革や多くの大企業が立地する県南部の市町村からも釜石港を活用するための江刺田瀬インターにつながる道路整備の要望も多いことから、県として大きなビジョンを描いていただき、計画的に整備を進めることにより、最大限の事業効果が発揮できると思います。

県当局の答弁は、「将来の動向を見極めながら、事業化の時期などについて見極めたい。」とのことですが、調査からスタートして完成までは5年から10年を要することから、見極めている時間はないと思います。

須賀地区のふ頭用地の造成と大型岸壁整備の事業化、釜石両石ICのフルIC化をはじめ、大規模な投資が必要となりますが、停滞する経済を動かしていくためにも、必要な投資であると考えますから、私の掲げる重要政策の一つとして、早期事業化に向けて、関係機関とより連携を密にしながら、取り組んでまいります。



経済復興と教訓の伝承に向けて

東日本大震災津波の発生から12年が経過し、この間、二度の台風災害、3年以上にわたるコロナ、そして昨今の急激な物価高と息をつく暇もなく、被災地の経済復興は外的要因により阻害されています。

被災地経済が非常に厳しい状況であることは、県当局も認識しておりますが、より経済復興という視点を強く持ち、復興のゴールについて、被災地の県民所得や県民意識調査など、具体的な数値目標を設定した上で、政策や事業を組み立てるべきである旨、指摘いたしました。

その一環として、3月11日を中心に被災地の経済復興と教訓の伝承を目的とした県主催の大規模なプロジェクトの実施を提案いたしました。今、被災地に残されている主な課題は経済復興と心のケア・コミュニティの形成支援であります。そして、二度と同じ悲劇を繰り返さないためにも、震災で得た教訓の伝承は時間を区切ることなく、永遠に続けていかなければなりません。

私たちには、震災を風化させないための継続した取り組みが必要であると思っていますから、提案したプロジェクトの実施に向けて、粘り強く、活動してまいります。



吉里吉里漁港が「海業」振興モデルに選定

令和5年3月に、大槌町の吉里吉里漁港が水産庁の海業振興のモデルに、全国で12カ所の一つとして、また、東北で唯一選定されました。

磯焼け対策や海面養殖など、地域が一体となった取り組みが評価されたものと思います。

モデル地区に選定されたことにより、海や水産物等の地域資源の価値や魅力を活用して地域の活性化を図るため、今後、課題の整理や計画策定など、水産庁が協力・支援を行うこととなります。

これまでの取り組みに加え、漁港を拠点とした漁業・養殖体験などを活用した漁村体験プログラムや修学旅行、臨海学校等の教育旅行の受入れのほか、漁港におけるプレジャーボート、藻場保全活動などを組み入れたダイビング等の受入れや運営などが期待されます。

好機を活かすためにも、私もしっかりと後押しをしていきたいと思っております。



岩崎友一プロフィール



岩崎 友一
 (いわさき・ともかず 44才)
 誕生日 昭和53年9月18日



公式HP



Facebook

自己紹介

趣味 野球、ゴルフ、DVD・音楽鑑賞、温泉旅行
 座右の銘 「温故知新」
 好きな食べもの 納豆、麻婆豆腐(辛口)、秋刀魚の塩焼き
 長所 何事にも前向きなところ
 短所 たまに突っ走りすぎる

経歴

平成3年 大槌町立安渡小学校 卒業
 平成6年 大槌町立大槌中学校 卒業
 平成9年 盛岡中央高等学校 卒業
 平成15年 城西大学 経済学部 経営学科 卒業
 平成16年 鈴木栄子司法書士事務所 勤務
 平成18年 (株)ガルバート・ジャパン 勤務
 平成22年 (株)大槌タクシー 専務取締役就任
 平成22年 岩手県議会議員補欠選挙で初当選
 平成23年 岩手県議会議員選挙で2期目当選
 平成27年 岩手県議会議員選挙で3期目当選
 令和元年 岩手県議会議員選挙で4期目当選 (現在に至る)

自由民主党岩手県支部連合会の役職

平成30年1月～ 幹事長

県議会の役職等

令和3年10月～
 商工建設委員会 委員
 デジタル社会・DX推進調査特別委員会 委員
 令和2年3月～ 議員定数等検討会議 副座長
 令和元年9月～
 東日本大震災津波復興特別委員会 委員
 平成30年1月～ 自由民主党 会派代表